

スチュアート渓谷 山旅報告書

スプール・ライン・トレイル 山旅報告書

No. 5

日 時：2026 年〔令和 8 年〕7 月 2 日

参 加 者：岡村眞由美・岡村繁雄 他 2 名

行 程：レイク・ミネワンカ → スチュアート渓谷 ⇒ キャンモア → スプール・ライン・トレイル

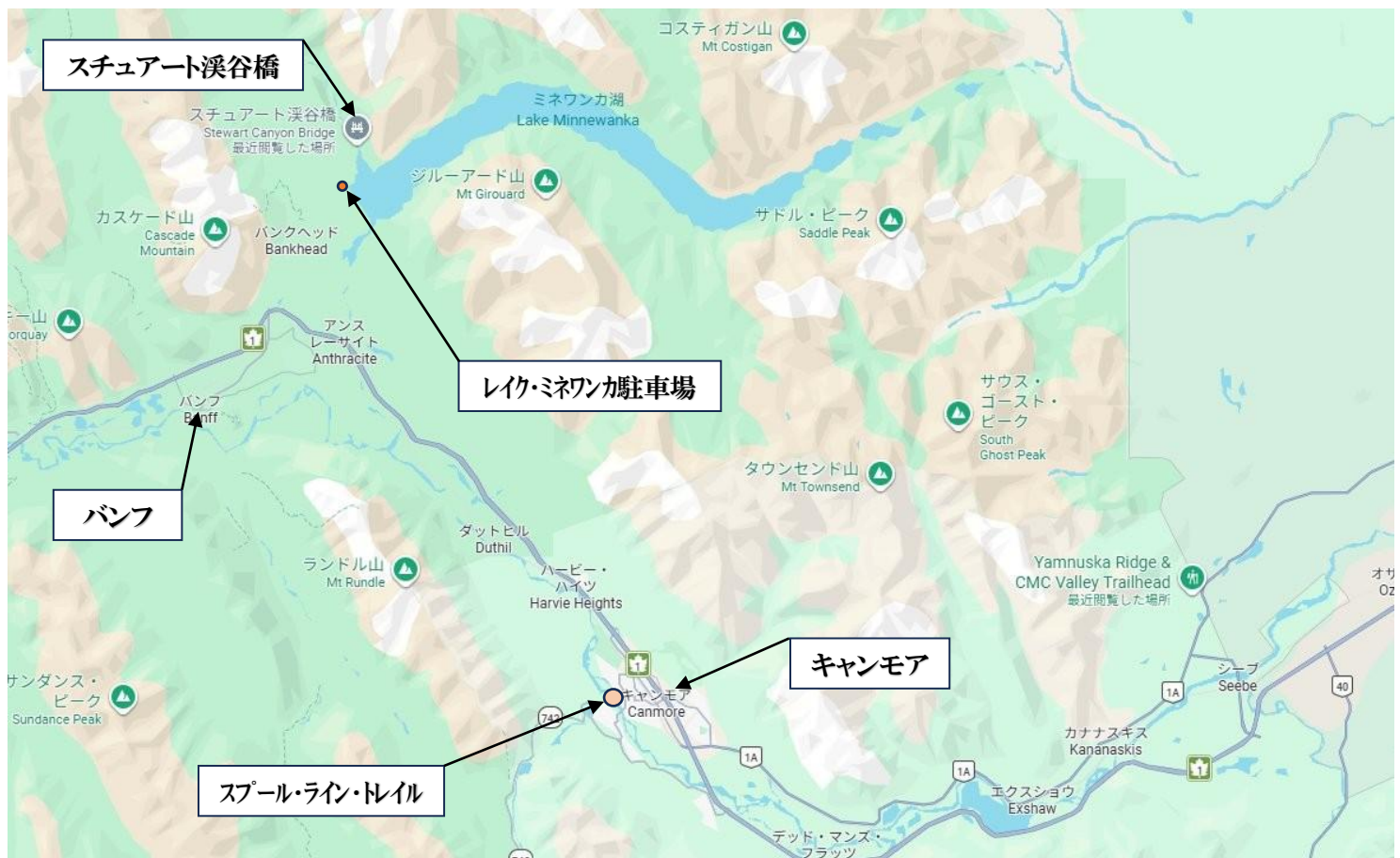
行動時間：スチュアート渓谷 1 時間 30 分

スプール・ライン・トレイル 1 時間 10 分

バンフの北西に位置するレイク・ミネワンカ(Lake Minnewanka)のスチュアート渓谷(Stewart Canyon)は、B&B モナークの小川さんから「近場で景色も素晴らしい」と勧められ、訪れてみることにした。

キャンモアからレンタカーで約 30 分。到着した頃はやや曇り空だったが、レイク・ミネワンカの駐車場に着く頃には次第に雲が切れ、周囲の山々がその雄大な姿を現し始めた。

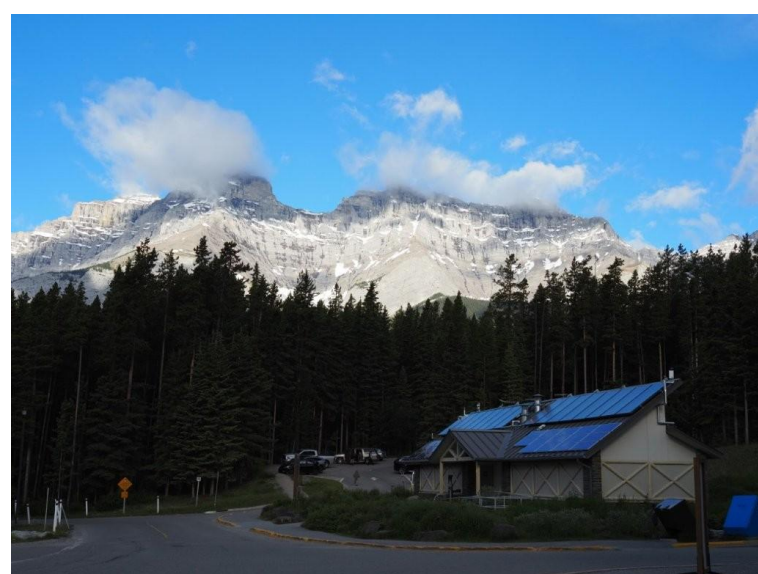
スチュアート渓谷は、湖から流れ出るスチュアート川沿いの渓谷である。湖畔を眺めながらスチュアート・キャニオン橋(Stewart Canyon Bridge)までのレイク・ミネワンカ・トレイルをのんびり歩くと、雲間から差し込む陽光に照らされた対岸の山々と、それを映す静かな湖面がひとときわ美しかった。



Google マップより



駐車場からカスケード山 (Cascade Mountain) を望む〔望遠〕



駐車場の南東側を望む



ミネワンカ湖のクルーズ船

この駐車場の前よりレイク・ミネワンカのクルーズができるようで、多くのクルーズ船が停泊していた。
 少しずつ天候も回復して、青空も時折見られるようになった。



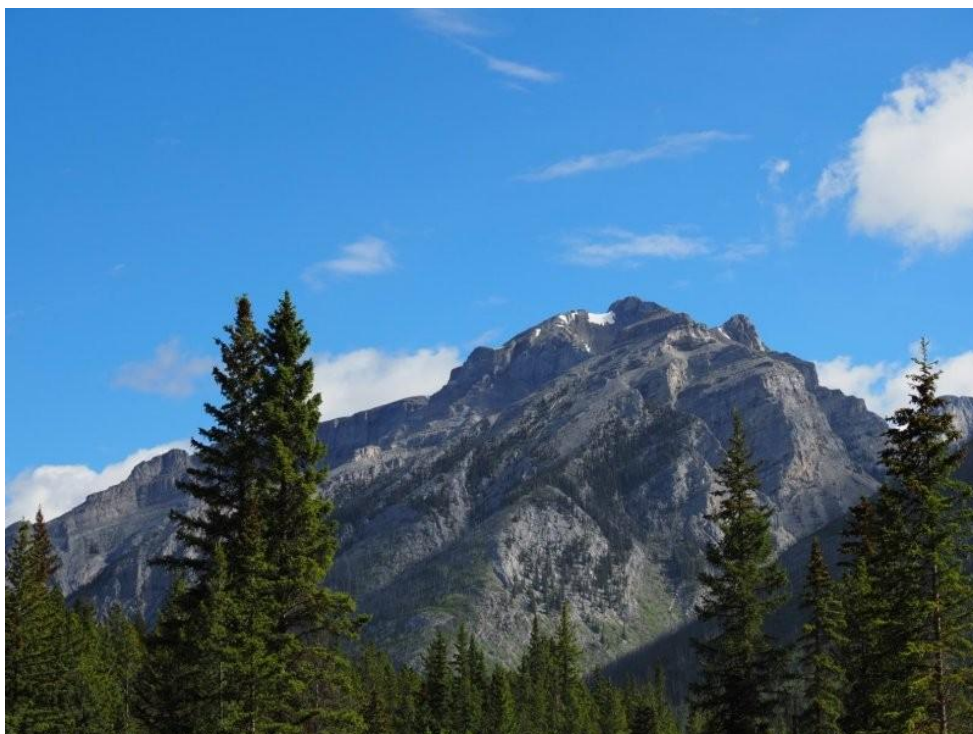
整備されたトレイル



トレイル途中の案内板より



途中のキャンプ場にて



〔望遠〕



ジルーアード山 (Mount Girouard) を望む





スチュアート・キャニオン橋 (Stewart Canyon Bridge)



ビッグホーンシープと思われる雌の群れ

橋の上で記念写真を撮っていると、毛の生え替わる時期と思われるビッグホーンシープと思われる雌の群れが数頭、ゆっくりと橋を渡ってきた。人をほとんど警戒する様子もなく目の前を通り過ぎる姿は、カナディアンロッキーならではの印象深い光景であった。



スチュアート・キャニオン橋を渡っていく ビッグホーンシープ?の雌の群れ

さらに橋の先へ進もうとしたが、その先はクマの出没により通行止めとなっていたため、そこで引き返すことにした。
カナディアンロッキーには、訪れる先々で雄大な山々に囲まれた美しい湖があり、それぞれが異なる魅力を見せてくれる。レイク・ミネワンカもまた、気軽に壮大な自然を満喫できる魅力的な場所であった。



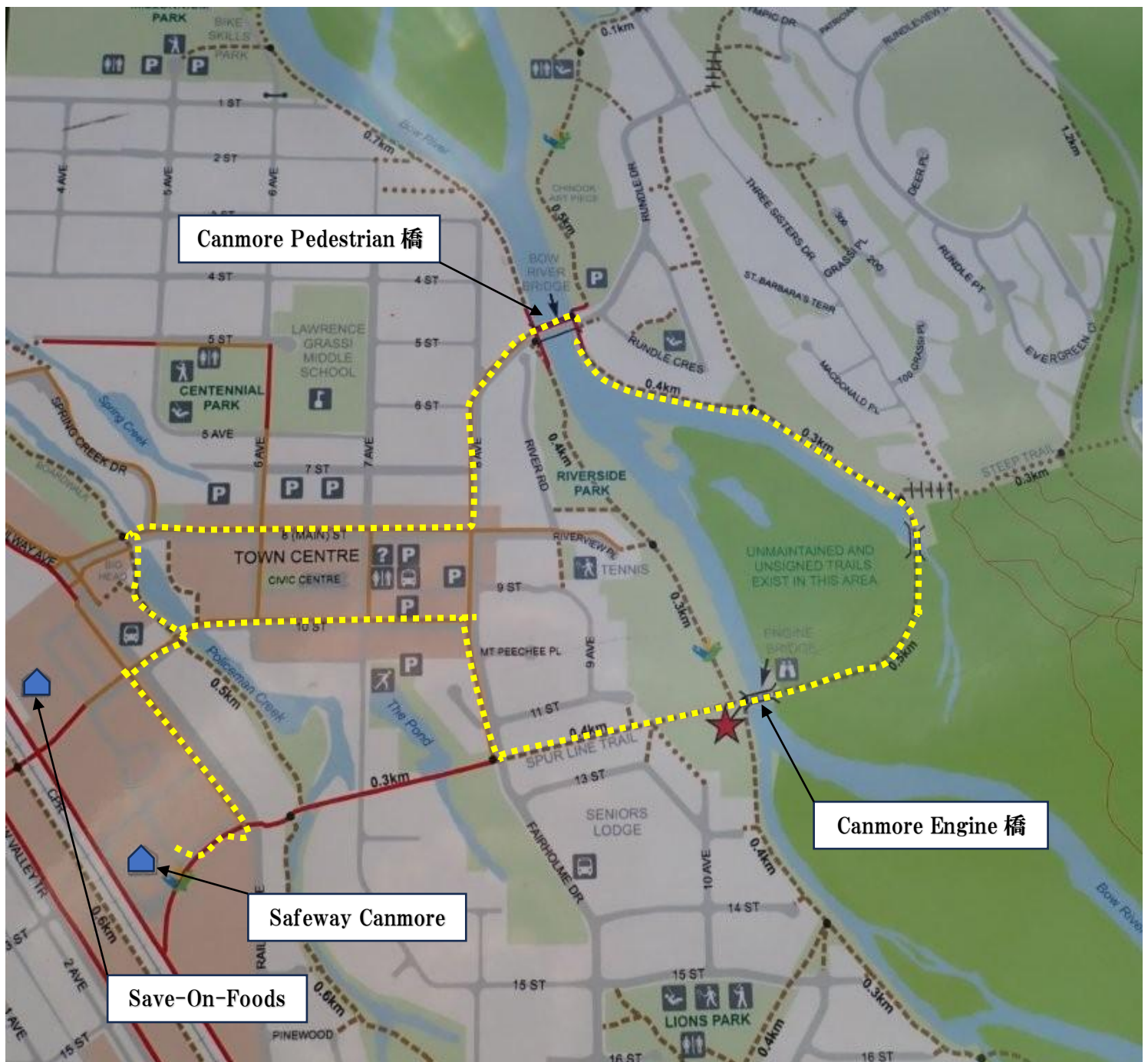
通行止めの箇所に設置されていた掲示板

レイク・ミネワнкаを後にし、キャンモアへ戻ってスーパーマーケットのセーフウェイ(Safeway Canmore)の駐車場に車を置いて散策に出かけることとした。キャンモアの街中では、無料で利用できる貴重な駐車場だった、帰りには買い物をして帰った。

近くにサーベ(Save-On-Foods)のスーパーマーケットもあるが、入り口のモニターで駐車手続きをする必要があるためあまり長時間駐車できない。

そこから、事前に調べておいたキャンモア郊外のウォーキングコース、スプール・ライン・トレイル(Spur Line Trail)を歩いてみることにした。

キャンモアの西側を流れるボウ川に架かる Canmore Engine Bridge を渡る周回ルートで、地元の人々が散歩を楽しむような、のどかな雰囲気のコースである。



キャンモアの街とスプール・ライン・トレイル [黄色い点線 歩いたコース]

キャンモアの西側を流れるボウ川に架かる Canmore Engine Bridge を渡る周回ルートで、地元の人々が散歩を楽しむような、のどかな雰囲気のコースである。



Canmore Engine 橋



橋よりスリーシスターズ方面を望む



スリーシスターズ〔望遠〕



歩いていると、木々の間を白い綿毛に包まれた種子が風に乗ってふわりふわりと舞い、写真には収められなかったものの、初夏らしい風景を演出していた。後で調べたところ、これはポプラの種子を包む綿毛(種毛)ではないかと思われる。

ボウ川沿いを歩いて街へ戻る途中、地元の人が思い思いに散策やジョギングを楽しんでいた。街のすぐ近くにこのような自然豊かな散策路があり、さらに周辺には山麓を含め数多くのハイキングコースが整備されている環境は、実にうらやましく感じられた。



ポプラの種子を包む綿毛(種毛)ではないかと思われる



右奥に Canmore Engine 橋を望む



Canmore Pedestrian 橋

この日は、スチュアート渓谷までの往復約 1 時間 30 分ほど歩いた後、キャンモアに戻ってスプール・ライン・トレイル約 1 時間を歩いた。

いずれも気軽に楽しめるショートコースではあったが、美しい景色を眺めながら歩き続けたため、思いのほか充実した一日となった。一方で、連日歩き続けていたため、疲れもかなり蓄積しているのを感じた。



Canmore Engine 橋からも望むことができたスリーシスターズ〔望遠〕



キャンモアを出発する際には青空が広がり、三つの峰が美しく連なる雄大な姿を写真に収めることができた。
スリーシスターズは、キャンモアを象徴する山の一つであり、その特徴的な山容は今回の旅でも特に印象に残る存在であった。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura